

公務員薬剤師 初任給1500円増

人事院 6年連続引き上げ勧告

人事院は、2019年の国家公務員給与である月例給(基本給)を0.09%、ボーナス(期末・勤勉手当)も0.05カ月分引き上げるよう国会と内閣に勧告した。4月分の減額前給与が民間よりわずかに下回ったことから、俸給表の水準を引き上げると共に、ボーナスに当たる特別給の支給額を増額する。病院等に勤務する公務員薬剤師は医療職俸給表(二)が適用され、6年制薬剤師の初任給(2級15号俸)は21万0500円となり、昨年に比べて1500円アップ。引き上げ額は一昨年の1000円、昨年の1200円に比べて増加した。引き上げ勧告は6年連続となる。

国家公務員の給与は、民間企業の4月分の給与を調査した上で比較し、官民差を埋めることを基本に勧告を行っている。特別給(期末・勤勉手当)についても、民間ボーナスの過去1年間の支給実績を把握し、国家公務員の支給月数を合わせてい

る。

給与勧告を行うため、全産業をカバーする全国約1万2500の民間事業所の約55万人を対象に個人別の給与を調査した。それによると、今年4月の減額前の国家公務員給与は民間を平均387円(0.09%)下回り、ボーナスは昨年8月から今年7月までの民間の支給割合が4.51カ月となったのに対し、公務員の支給月数は4.45カ月とわずかに下回ったことから、民間の支給割合に見合うよう0.05カ月引き上げることにした。

公的病院等に勤務する薬剤師は、栄養士、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等と共に医療職俸給表(二)が適用される。薬剤師の初任給は21万0500円と昨年より1500円アップした。

今年の国家公務員給与等実態調査では、医療職俸給表(二)の適用職員数は476人と前年より増えた。平均年齢は46.2歳と昨年に比べて0.1

歳上がり、平均経験年数は20.9年と昨年同様だった。

従業員50人以上の事業所を対象に今年4月現在の民間給与実態の調査結果も公表された。準新卒の薬剤師初任給は、時間外手当や家族手当、通勤手当等を除き平均22万8790円となり、昨年から3123円のダウンとなった。昨年の大幅アップから一転した格好だ。

企業規模が500人以上では22万4993円と、昨年の23万1208円から6215円の大幅ダウンとなった一方で、100人以上500人未満では23万6567円と昨年さらに3055円アップ。500人以上の企業より100人以上500人未満の企業で初任給が高い状況は拡大しつつある。

民間給与は、企業規模全体で見る

と昨年から一転してダウンし、公務員薬剤師の初任給と比べて500人以上の企業では給与差が1万4500円程度と縮まったものの、100人以上500人未満の企業とは2万6000円程度の差に広がっている。

医療関係職種の時間外手当を差し引いた4月支給分の平均給与額を見ると、薬剤師が平均年齢37.0歳で33万0742円、薬剤師2人以上の部下がいる薬局長は平均年齢50.2歳で47万8247円と昨年に比べて1797円減少し、2年連続のダウンとなった。

一般の薬剤師の平均給与は前年のアップから一転して1万2521円の大幅ダウンとなり、薬局長は昨年の約8000円の減収に続くダウンとなった。

ニュースダイジェスト

ガスモチンのスイッチ化「可」

厚労省検討会 ミオナールは「否」

厚生労働省の「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」は、スイッチOTC薬の候補となる2成分を評価した。消化管運動機能改善剤「モサプリドクエン酸塩水和物」のスイッチ化について「2週間の服用後も症状が改善されない場合は医療機関を受診すること」を条件に「可」とした一方、筋緊張改善剤「エペリゾン塩酸塩」は「否」と結論づけた。前回会合でスイッチ化を「可」とした過敏性腸症候群(IBS)改善剤「ポリカルボフィルカ

ルシウム」の判断は変わらなかったものの、安全性確保の面から、厚労省がセルフチェックシートの原案を作成した上で、12月の次回会合で示すこととした。

大日本住友製薬のモサプリドクエン酸塩水和物(ガスモチン錠)のスイッチ化について、日本消化器病学会、日本臨床内科医会、日本OTC医薬品協会は、重篤な副作用が極めて少なく、安全性が高いことなどから、「可」と判断した。

上村直実委員(国立国際医療研究

センター国府台病院名誉院長)は、「OTC化は問題ない」としつつ、「服用開始から2週間後に症状がないかセルフチェックシートで確認できるようにすべき」と述べた。湯浅章平委員(章平クリニック院長)も「医療機関を受診して肝機能をチェックすることが必要。2週間をメドにOTC化を認めるのがよい」との考えを示した。

他の委員からも肯定的な意見が相次いだことから、検討会議は、2週間服用しても症状が改善されない場合は服用を中止し、医療機関を受診するよう情報提供することを条件に同剤のスイッチ化を「可」とした。

エーザイのエペリゾン塩酸塩(ミオナール錠)に関しては、OTC薬

協がスイッチ化を「可」とする一方、日本整形外科学会と日本臨床整形外科学会は「否」とする考えを示した。

五味洸聡志参考人(日本整形外科学会社会保険等委員会担当理事)は「腰痛、肩こりは専門家でも非常に診断が難しい症状で、セルフメディケーションに適した医薬品であるかは疑問だ。生活習慣の見直しや運動療法も必要で、服用すれば治るというものではない」と反対。長島公之委員(日本医師会常任理事)も「腰痛、肩こりの原因となる疾患は極めて多種多様で、治療法としてきめ細かい生活指導が必要」と述べたことなどを踏まえ、検討会議は同剤のスイッチ化を「否」と結論づけた。



青本が変わる！！

5年生必見！
改訂コアカリキュラム / 第106回新出題基準対応
～2019年11月発刊予定

オンライン教室が変わる！！

無料でCBT体験
～9月スタート！
無料で国家試験対策
～12月下旬スタート！



画像は製作中のものです

薬ゼミアプリが変わる！！

全学年必見！
全問解説付き & オフライン利用もOK！
～近日公開予定

学校法人医学アカデミー

薬学ゼミナール
薬剤師国家試験対策予備校

<http://www.yakuzemi.ac.jp>



0120-77-8903